学校番号	3016

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	国語表現	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「国語表現」　（大修館書店）						
副教材等	「プレゼミ総合国語」　（浜島書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・国語表現は、表現力や読解力を養うのに重点を置いた科目です。漢字や作文はもちろん、手紙の書き方や敬語といった社会人としての「国語の常識」も併せて学んでいきます。
・進路を決定するうえで重要となる自己ＰＲ文や小論文への対応力も身に着けていきましょう。
・原稿用紙や便箋などを使った提出物やプリントなど、多様な課題があります。期限を守って提出しましょう。

２　学習の到達目標

・整った、わかりやすい文章で表現することができる。
・自己分析を踏まえた自己ＰＲや、社会の諸問題に対する意見を的確に表現することができる。
・通信文を書き分けたり、適切な言葉遣いで電話をしたりすることができる。
・互いを尊重し、相互理解を深め、正しく意志を伝え合うコミュニケ―ション能力を身に付ける。
・言語感覚を磨き、場面に応じた適切な言葉で対応する力を身につける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。
評価方法	行動の観察 記述の点検 （ワークシート、問題集など）	行動の観察 （発表、ロールプレイなど）	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 （ワークシート、原稿用紙）定期考査	行動の観察 記述の確認 （ワークシート、問題集など） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	書いて伝える。	整った文を書く。 わかりやすい文を書く。 原稿用紙の使い方。	○		○	○	a:主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一、話し言葉と書き言葉の違いなど、整った文を書くために大切なことを理解している。 ｃ:長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解している。 ｄ:縦、横、それぞれの原稿用紙の書き方や数字やアルファベットの記述方法などを身につけている。	a、c、d 行動の観察と記述の点検及び定期考査
	自己PRと面接	適切な言葉遣い(敬語)を身につける。	○	○		○	a:敬語の基本的な知識を身につけている。 b:場面に応じて適切な敬語表現を使用することができる。 ｄ:正しく理解し使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、d 行動の観察及び記述の点検 記述の確認及び定期考査
	話し言葉と書き言葉	話し言葉と書き言葉を使いわける。 志望動機をまとめる。	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:整った文を書くために大切な知識を身につけている。 ｂ;正しい日本語を使うことができる。 ｃ:書くことに必要な文章の形態や文体の違いを理解している。 d:正しく理解し使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、c、d 行動の観察及び記述の点検 記述の確認及び定期考査

二学期	通信文を書く。	手紙やはがきの書き方を学ぶ	○		○	○	a:手紙の基本的な形式を習得している。 c:相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書ける。 d:伝統的な手紙の用語を身に付けている。	a、c、d 記述の確認 及び定期考査
	電話を使いこなす。	場面や相手に応じた電話での話し方を理解する。	○	○		○	a:電話のマナーや言葉遣いを学ぶ。 b:相手に応じた適切な言葉遣いや応対のしかたを身につける。 d:正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a、b、d 行動の観察 記述の確認 定期考査
	相手や場面に応じた会話	場にふさわしい敬語表現、相手や場面に応じた言葉遣いを学ぶ。	○	○		○	ａ;場面にふさわしい言葉遣いを考える。 ｂ;適切な言葉遣いでロールプレイする。 ｄ;話し合いにおいて適切な言葉遣いを用いている。	a、b、d 行動の観察 定期考査
三学期	メディアと情報 まとめ	メディアの特性を知る。	○	○	○	○	ａ;情報が編集されたものであることを理解する。 ｂ;メディアごとに立場や条件が異なり、情報の伝え方が違うことを理解する。 ｃ;メディアについて書かれた文章を読み、感想を書く。 ｄ;副教材を用いて国語常識を復習する。	a、b、c、d; 行動の観察 記述の確認 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す聞く能力
　　c:書く能力　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。